

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和5年 3月1日 第12号
TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



楽しく、豊かな人生のために

校長 鮫島 弘樹

紙に書いた鉛筆の文字を、ちぎったパンでゴシゴシこすっても、かえって黒く汚れてしまいそうです（真似してはいけません）。ところが昔は、本当にパンを使って字を消していたそうです。消しゴムが発明される前の話です。

「知ってますか？消しゴムって、実はゴムじゃないんですよ」パンの話と共に私に教えてくれたのは、かつて担任していたある生徒です。「ゴムじゃなくて、ポリ塩化ビニールで出来てるんです」

実に知識の豊富な、面白い生徒でした。

大人に限らず、「〇〇博士」と呼ばれるほど、特定分野に長けた小学生や中学生がいるものです。

昆虫や宇宙、恐竜、電車に城、といった比較的メジャーなものから、食虫植物や深海魚に昭和の家電など、かなり限定的な対象について飽くなき情熱を注ぎ、幅広い知識を持った人たちもいます。

興味を持つきっかけは人それぞれなのでしょうが、共通しているのは、それについて語っているとき、彼らが何とも生き生きと、楽しそうにしているということです。誰から強制された訳でもなく、興味を持ったことを、好きなように追求していることの表れなのでしょう。

四中生の中にも、「博士」のレベルまで至らなくとも、スポーツや歴史、生物、音楽など、ある特定の分野にとっても詳しい生徒がいるようです。

一方、学校での学びとなると、「勉強

ですか？楽しいです！」という生徒にはあまり出会いません。多くの中学生が、「勉強」と聞くと途端に身構えてしまったり、「嫌だけど仕方なく」といった気持ちになってしまったりするのは、興味のあるなしに関わらず、「やらなければならない」と捉えているためでしょうか。

3年生は、あと数日で中学校までの学びが終了します。この先、進学しても学びは続きますし、将来仕事に就いてからも、常に学ぶ必要性に迫られます。義務教育の期間を終えても、「やらなければならない」といった意識からは、なかなか逃れられないものです。

しかし元来、人は「知らないことを、知りたがる」「新しい知識を得ることを、楽しいと感じる」という性質を持っているものです。雑学と呼ばれるような知識であっても、初めて知った時に「へーっ、そうなんだ！」と少し楽しい気持ちになるのはそのためです。

卒業する3年生の皆さんには、「やらなければならない」学びだけでなく、好きなことや興味のあることについて、「もっと詳しく知りたい」「上達したい」などと、生涯にわたって学び続ける人になって欲しいと思います。

四中で過ごした3年間で、必要な知識や技能だけでなく、新しいことの「学び方」そのものも学んできたはずです。それらを礎として、この先も学び続けることで、楽しく豊かな人生を送って欲しいと願っています。